

編集後記

■編集委員

委員長

稲本 陽子

副委員長

菅野 倫子

委員

阿部 晶子

内田 信也

勝木 智雅

倉藤 睦子

佐藤 睦子

椎名 英貴

中村 光紀

原由 紀美

原田 浩美

春平 則子

深島 ユイ

深浦 順一

福岡 達之

藤原 加奈

水田 秀子

矢守 麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

■相談役

藤田 郁代

立石 雅子

今号は、2026年6月26日・27日に広島市で開催された第27回日本言語聴覚学会における一般演題の事後抄録を掲載しています。過去最多となる3,000名を超える参加登録がありました。開催期間中は台風や大雨の影響により交通機関の乱れも生じましたが、そのような状況にもかかわらず約9割の参加者が現地に集い、各会場では活発な議論が交わされました。言語聴覚士への期待の大きさと、本領域のさらなる発展を感じさせる、大変活気に満ちた学会となりました。

現在、言語聴覚士には、医療機関における専門的支援に加え、地域生活や教育・福祉との連携、さらには災害時支援など、多様な場面での役割が求められています。本学会では、「多様なニーズに応える言語聴覚士―共生と成長の楽しさ―」をテーマに、共生社会における言語聴覚士の役割や地域医療、失語症支援、摂食嚥下リハビリテーション、発達障害など幅広い領域が取り上げられました。多彩な企画を通して、専門職としての新たな役割や今後の方向性について考える機会となりました。

今号には、学会の事後抄録のほか、原著論文4編、調査報告2編、レポート「現場最前線」2編を掲載しています。原著論文では、吸気筋訓練時の嚥下関連筋活動、左半側空間無視患者における縦書き文の読み誤り、自閉スペクトラム症児の発話プロソディ、吃音に対する介入効果が報告されています。調査報告では、臨床実習を経験した学生の自己効力感の変化や、急性期病院における看護師の摂食嚥下支援に関する教育の効果が検討されています。また、「現場最前線」では、失語症者への意思疎通支援の現状と課題、および令和6年能登半島地震における地域中核病院の言語聴覚士の活動が紹介されています。今号に掲載された論文は、基礎的研究から臨床研究、教育、災害支援まで幅広いテーマを扱っており、言語聴覚療法が対象とする領域の広がりを改めて感じさせます。それぞれ異なる視点から臨床上・教育上の課題に取り組んでいますが、いずれも日々の実践をより良いものにするための示唆に富んだ内容となっています。

折しも、このたび熊本で大きな地震が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

(稲本陽子)

言語聴覚研究 (第23巻 第3号) 2026年9月15日発行 [年4回 (3, 6, 9, 12月) 15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円 (本体2,000円+税10%)

2026年年間購読料: 8,800円 (4冊, 税込, 送料販売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人 日本言語聴覚士協会 (会長: 内山量史)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <https://www.japanslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS),

Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2026, Printed in Japan

制作・販売: (株) 医学書院 (代表: 金原 俊) <https://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

商品・定期購読の送付先変更その他のお問い合わせ先

<https://www.igaku-shoin.co.jp/inquiry>

印刷所 (株) 真興社

広告取扱 (株) 文京メディカル ☎ 03-3817-8036 FAX 03-3817-8044